

千代田区社会福祉協議会

CSW

コミュニティソーシャルワーカー

実践中

～地域に出向きます～

令和6年度報告書





身近にある 困りごと

CSW（コミュニティソーシャルワーカー）は、くらしや地域のお困りごとを受けとめ、地域の方や関係機関とともに協力して、解決に向け取り組みます。
電話・来所のほか、訪問対応もします。

どこの窓口に行ったら良いのかわからない

子どものための居場所がほしい

子育てと介護が重なり大変...

お金の管理に自信がない

子どもが学校に行きたがらない

ひとりで悩みを抱えている

夫に先立たれひとりになり不安になった

地域に知り合いがない



お気軽にCSWに お声がけください

コミュニティソーシャルワーカー

人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの衰退という問題に加え、生活課題が複雑化・複合化する中、制度の狭間の問題や本人・家族が子ども、高齢、障がい等、複数分野の課題を抱えるケースが増えています。CSW（コミュニティソーシャルワーカー）は、公的な福祉サービスでは対応できない制度の狭間で困窮しているなど、日常生活の中で困りごとを抱えている人を支援するために、専門機関・住民・ボランティア団体との連携の調整や新しい仕組みづくりにむけて、コーディネートを行っています。CSWが何から取りかかるのか問題を整理し、ご近所・ボランティアや関係機関と連携し、ご本人を含めて一緒に考え、解決を目指します。また、地域のつながりづくりや地域活動への参加支援を通して、「みんなが参加し、ささえ合うまちづくり」をすすめていきます。

◎具体的な取り組み

近所に気になる人がいる

CSWがご近所や関係機関と連携し、本人も含めて一緒に考え、解決を目指します。

どこに相談したらよいか わからない

何から取りかかるのか、問題を整理し、必要なサービスにつなげるお手伝いをします。

地域でつながりがほしい

地域の居場所やコミュニティへおつながりする他、活動場所のご紹介もします。

ご本人 から



誰にも相談できず、困っていることなど、まずはお話をお聞きます。また、企業・学校の皆さまで支え合いの活動やボランティア活動を希望される場合は活動先をご紹介します。

ご家族 から



相談先がわからない、現状を良くしたいが行き詰っている等、解決に向けて一緒に考えます。

地域の方 から



住民同士の声かけ活動や話し合いの場づくり、町会福祉部活動等、地域での活動や取り組み等を一緒に考えます。

関係機関 から



ひとつの機関だけでは解決が難しい場合であっても、他機関と協力し合うことで解決の糸口が見つかることがあります。



このような取り組みをしています

地域に出向いて相談受付

つどう

ふくし出張相談



< 概要・目的 >

- 福祉や生活について気軽に相談できる、より身近な場所を目標に、CSWが開催している相談会です。
- 生活上の不安や心配なこと、相談先がわからないなど、困りごとを受け止め、地域のみなさんや関係機関と協力して、解決に向けてサポートします。

< 成果 >

令和6年度は、区内6地区ごとに開催。これまでどこにもつながりがなかった方からの相談もあり、継続的な関わりを築くことができました。区民の身近な居場所である「はあとサロン」で開催した際には、サロン担当職員と連携して普段とは違う切り口で悩みごとを聞くことができました。

地域の課題をみんなで考える

気づく

住民向け学習会



< 概要・目的 >

- 千代田に暮らす誰もが地域課題を我がごととして受け止め、ご近所の悩みや困りごとに気づききっかけとするため、年2回程度、学習会を開催しています。区民の皆さんと一緒に考えたい地域課題をテーマに、グループワークなどを設け、話し合う場を作っています。

< 成果 >

6月には「障がい・高齢 地域の課題について学ぶ会」、3月には「ヤングケアラーを知っていますか？～子どもが子どもでいられる地域について考える会～」を実施。これまで気づけなかった地域の課題に関心を持ち、ささえ合うためのきっかけとなりました。また、グループワークでは、自分たちにできることは何かについて話し合い、地域で活動していきたいという声もありました。

地域と学校をつなぐ人たちの連携

気づく

地域コーディネーターとの連携



< 概要・目的 >

- 区内の公立小中学校には、学校と地域をつなぐ存在として地域コーディネーター（地域学校協働活動推進委員）が配置されています。
- 地域コーディネーターを通じてCSWの取り組みを知ってもらうことで、学校や生徒に社協や福祉への理解を深めてもらうことができます。

< 成果 >

6月に区内公立小学校4年生「社会」の時間で、ゲストティーチャーとしてCSWが招かれ、「ふくしってなあに？」というテーマで授業を実施。将来の地域を担う子どもたちに福祉の入口に触れてもらう機会となりました。

11月に区内公立中学校3年生の進路学習の一環として模擬面接会を行うにあたり、CSWがコーディネートした区内企業ボランティアが面接官として活動。これまで関わりの少なかった教育現場と企業、福祉がつながる第一歩となりました（P9参照）。

みんなで集まって話し合う

つなぐ

コーディネーター連絡会、SSW（スクールソーシャルワーカー）情報交換会



< 概要・目的 >

- 区内にはさまざまな分野の専門職であるコーディネーターが活躍しています。コーディネーター同士が出会い、話し合う場をつくることで、多様な課題を抱えた住民に対して、連携した支援を行うことを目指します。
- 子どもの課題が複雑化する近年、SSW（スクールソーシャルワーカー）とCSWが連携することで、学校の外の生活も含めて子どもへの支援が行き届くことを目指します。

< 成果 >

これまで交わることのなかった分野のコーディネーターが同じケースを検討することで、別の観点からの支援の学びとなりました。

子どもの発達や成長に悩みを抱える地域の保護者の声などをSSWと共有できたことは、大変有意義でした。



このような取り組みをしています

つなぐ

地域の課題を関係機関と共有する

地域課題共有会



< 概要・目的 >

●地域の福祉課題について、各関係機関が連携・協働して支援をすることを目的に、これまで積み重ねた地域アセスメント（地域の情報など）を共有し、それぞれが考える地域課題や地域性の違い、不足する社会資源について話し合いました。

< 成果 >

普段連携している関係機関同士が、それぞれ対応したケースの積み重ねで見えてくる共通点等を探ることで、知らなかった情報や地域アセスメントの機会となりました。

地域で活動する人たちの意見交換

ささえる

ちよむすび 地域福祉のプラットフォームづくり



< 概要・目的 >

●地域共生社会の実現に向け、多様な人々が地域の課題に気づき、受け止め、話し合う場（プラットフォーム）や、解決に向けて協力し合える場をつくりました。
●参加することで新たなつながりが生まれたり、自分たちの活動をみんなに知ってもらえたり、地域で取り組むヒントがもらえるような場を目指します。

< 成果 >

参加者が自らの活動やその活動にける思いを共有することで、その地域にとっての大事なテーマが浮かび上がりました。
お互いに名前は知っていたけれども会ったことがない地域の活動者同士がつながり、顔の見える関係性ができました。今後も継続して開催します。



具体的にはこのような取り組みをしました

個別支援

事例①

高齢者の移転先や引っ越しについての支援をしました

＜相談内容＞

現在住んでいるマンションが再開発にともない立ち退きを迫られている。転居先について区役所に相談に行く。ひとりでは不安なため同行してほしい。

- 本人(80代女性)は、息子(60代)との二人暮らし。
- 生活費は、本人の年金とアルバイトの収入のみで、金銭的に余裕がない。
- 本人はアルバイトでの仕事を生きがいとしており、継続して千代田区に居住することを強く希望している。
- しかし、家計に余裕はなく、転居可能な物件が区内には見つからない現状。住み慣れた千代田で生活を続けたいという本人の思いを尊重しながら、課題を整理する必要があった。



CSWの視点

支援の流れ

(支援開始)

相談を受け、民生委員と一緒に
熱中症対策グッズのお渡しも兼ねて訪問



(半年後)

立ち退きについて成年後見センターの
福祉専門法律相談を案内し、同行。息子も同席



(10ヵ月後)

- ・息子が転居。一人暮らし用の住まいを探すため、区役所福祉総務課の窓口へ同行
- ・住宅の内見へ同行。家賃の支払いについて、支出の整理が必要だったため、地域福祉権利擁護事業※の利用を案内



(現在)

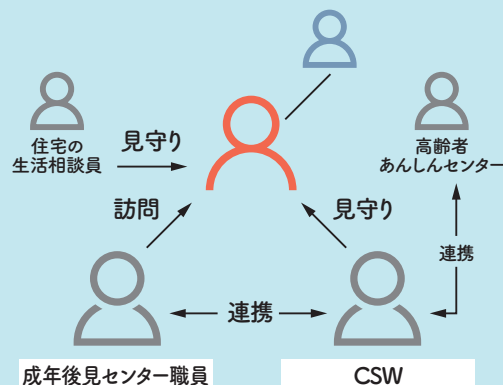
- ・住宅の入居が決定し、転居完了
各種手続きのために出張所へ同行
- ・介護保険の利用について、
高齢者あんしんセンターに同席してもらい説明
- ・地域福祉権利擁護事業の契約を締結
今後は成年後見センターの職員が定期的に訪問

CSWが関わる前後の変化

●関わる前の状況



●関わった後の状況



- ・息子は転居
- ・成年後見センターの職員が月に一度の頻度で訪問

◎ 成果・気づき

支援を行う中で、引っ越し後の生活でも日常生活支援の必要性を確認。成年後見センターと連携し、生活の支援も継続できるよう引き継ぐことができた。

◎ 今後の方向性

制度内での支援が困難になった際にはCSWも連携し、本人に合った支援を探していく。地域とのつながりづくりもすすめる。

※地域福祉権利擁護事業とは？ 福祉サービスの利用や日常生活上の権利を保障するため、住民を支援する制度



具体的にはこのような取り組みをしました

個別支援

事例②

子育ての不安を一緒に考えました

< 相談内容 >

子どもの進学に関する不安が大きい。
特に周りに相談する人もいない中で、ひとりでは不安を感じる。

- 継続的にサロンを利用している親子であり、他の利用者ともコミュニケーションをとる様子が時折見られていた。本人は特段子育てに関する悩みを話すことはなかったが、育児に関する本を読んでいた、子どもの言動で気になる点があった。
- ふくし出張相談の利用を悩んでいた様子があったが、利用をすすめたところ相談につながった。



支援の流れ

(支援開始)

ふくし出張相談や社協主催の親子の居場所事業を案内した。

これまで話すことのなかった子育ての悩み・今後の不安について打ち明けられるようになった。



(1ヵ月後)

再度の相談を受ける

サロンの参加後、職員との立ち話で子育てに関する悩みや困りごと、自身の体調についてを吐露する。



(半年後)

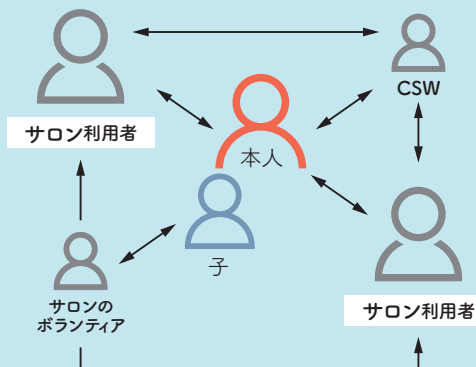
- ・子育てに関する悩みをサロン利用者と共有する等、自分の思い(悩みや不安等)を少しずつ共有できるようになった。
- ・職員が声かけや案内をしなくても自らサロンの申込をし、同じ悩みを持つ保護者と関わりを持つような動きが見られるようになった。

介入前後の変化

● 関わる前の状況



● 関わった後の状況入後



これまで通っていたサロンで息抜きをして過ごす中、他の利用者と自分のことや子育ての話をするようになり、不安が軽減していった。

◎ 成果・気づき

ふくし出張相談の利用により少しずつ家庭の状況や本人の状況が見えてきた。
初めての子育てであり、子どもの成長や発達に関する悩み・不安を吐き出し共有できる場がなかったが、社協のサロンの利用を通し、自身の気持ちを共有できる機会と場所が増えた。

◎ 今後の方向性

子どもの成長過程において本人の悩みは変化することが想定される。継続的な見守りや、声かけを行い本人が思いを溜め込まないように見守りをしていく。ボランティアやサロン参加者等、居場所を利用する方との交流も継続していけるようサポートする。

事例③

マンション内で起きた問題をみんなで考えました

<きっかけ>

- ・6出張所地区ごとに年に1回開催される町会福祉部連絡会で、情報交換や地域で起きている課題について話し合う場にCSWも参加した。
- ・民生委員より、住民より住宅内で孤独死があったため、見守りについて相談を受けたとの話があった。

- CSWと地区担当職員が住民に状況を確認
- 問題に感じている今が住民が住宅内での孤独死問題への対応や見守りについて話し合い、住民同士で支え合うきっかけになるのではないかと考えた。



CSWの視点

支援の流れ

(支援開始)

CSWと地区担当職員が相談センターとも連携し、住宅の役員会に複数回参加。話し合いを継続



(2ヵ月後)

話し合いの結果、自治会主催で福祉サービスや相談機関について学ぶ「住民勉強会＋個別相談会」の開催が決定
参加呼びかけのチラシ作成等をCSWが支援



(4ヵ月後)

勉強会ではCSWと相談センターが協力し、見守り関連のサービスの説明や住民からの個別相談に対応
勉強会后、マンション内でゆるやかな見守り体制ができ、今後は集いの場を開催していく動きになった。



ポイント

- ・自治会主催であることを尊重し、周知方法や勉強会の内容は役員が自ら決めることを支援
- ・自治会の継続した活動の参考にできるよう、他地区の取り組みを紹介
- ・住民の不安軽減、孤独死対策の目標は達成
住宅内の見守り機運が上昇

〇〇〇で「あんしん」して生活を送るために

千代田区社会福祉協議会・かがやきプラザ相談センターの職員さんをお呼びして便利な制度や福祉について教えてもらいます♪

- ①日常生活でちょっとした困りごと、心配なことがあった時の相談先って？
- ②高齢者が自宅で安心して過ごすための制度やサービスについて
- ③地域活動の取り組み方について



☆入退出はいつでも自由にできますのでお気軽にご参加ください♪
☆説明の後、個別相談も可能です♪

日時 令和6年〇月×日(△)

〇時～×時

場所 〇〇〇 集会室

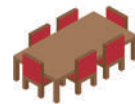
【主催】

〇〇〇自治会

【協力】

千代田区社会福祉協議会

かがやきプラザ相談センター



参加呼びかけのためのチラシ例



住民の声

勉強会を開催したことで、普段あまりお見かけしない方の参加や勉強会後に「困っています」と声をかけてくれた方もいて、あいさつだけだった関係からちょっとした変化がありました。今後も色々なアイデアが出てくることを楽しみにしています。



具体的にはこのような取り組みをしました

地域支援

事例④

生徒の未来に向けて企業ボランティアをコーディネートしました

< 相談までの動き >

学校現場と福祉が直接的につながる機会の少なさや、学校側の抱える課題が不明であり、学校の実情を知ることのできる機会は、「スクールソーシャルワーカー」（以下、SSW）からの情報のみであった。

そのような中、区内公立小中学校に全校配置され、活躍している「地域コーディネーター（地域学校協働活動推進委員）」（以下、地域Co）の存在を知る。

相談

CSWとして地域Coへアウトリーチを実施。話を伺う中で「中学3年生を対象にした模擬面接会を予定している」「地域Coが面接官全員を集めることは難しい状況にあり、困っている」という具体的な相談がでる。

対応

- ・中学3年生99名を対象にした地域模擬面接会に企業ボランティア14名をコーディネートする。
- ・活動には人事や採用担当の社員が多く参加した。
- ・活動者の中には外国籍のボランティアもあり、生徒へ母国語でアドバイスする等、企業ボランティアならではの臨機応変な対応も見られた。

ポイント

- ・区内の地域課題に目を向けて活動を行う「ちよだ企業ボランティア連絡会」へ課題を投げかけ、活動希望者のコーディネートを実施した。
- ・地域の課題を可視化してまとめる。同時に、活動内容もわかりやすくまとめたことで、社会貢献担当者が該当する社員へ直接活動を提案する等の動きが見られた。
- ・対面での事前打ち合わせと顔合わせ会を実施した。
質問事項等、事前に書類を準備してもらえることで活動のイメージを湧きやすくした。
- ・子どもたちに普段関わる親や教員以外の知らない大人と関わること＝キャリア育成の視点を持ってもらう。



ボランティアを受入れた学校の声

私たちが気づかない視点での質問をいただいたり、社会の第一線で活躍されている方々の振る舞いに触れ、生徒にとっても学びは大きかったと思います。



企業の声

少し緊張しましたが、生徒の皆さんが準備をしっかりされて、きちんと受け答えされていたのが印象的でした。



ちよだ企業ボランティア連絡会とは？

千代田区内の企業の社会貢献担当者が定期的に集まり、協働して区内の地域貢献活動に取り組む会（P13参照）

事例⑤

食を通した居場所（みりおん家）づくりと参加者への支援

<きっかけ>

令和6年4月から地域のボランティアと社協が協働し、食を通した居場所「みりおん家～ごはんもあるよ～」がスタート。当初は、共働きで夕飯を食べるのが遅くなる家庭の参加や子どもの孤食を防ぐ目的だったが、徐々にスクールソーシャルワーカーや民生・児童委員から紹介を受けた子どもの参加が増加

相談

- ①地域で気にかけている親子について、地域全体で見守りができる方法を探している。
- ②学校以外の自主学習で子どもに寄りそってくれる大人がいる居場所がほしい。



ボランティアの声

福祉まつりで、みりおん家に来ている小学生から、「食堂のおねえさん!」と声をかけられ、嬉しかったです。

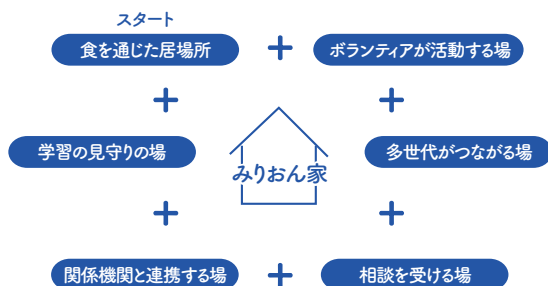
対応

- ①参加した際には、CSWが話を聞き、関係性を築いていった。その中で、課題を整理するとともに、継続的な見守りができるようになった。
- ②地域の高校生や大学生に課題を共有したところ、食事の前後で勉強や宿題を見守る活動につながった。

ポイント

- ・月に一度、食を通した居場所があることにより、つながりを持ち続けたい親子に定期的に話を聞くことができるようになった。
- ・参加している心配な親子について、スクールソーシャルワーカーや民生・児童委員のほか、学校の教員や近隣の学校・企業など、地域のつながりを活かしながら支援を行った。

◎ みりおん家の多機能化



みりおん家とは？

アキバ分室の「食と居場所の学習会」に参加した地域住民が中心となって創設したボランティアグループ。社協アキバ分室内開放スペースで、月に一度カレーを作り、子どもとその保護者に提供し、交流の場となっている。



企業や大学生もいっしょになって…

～登校が難しい子どもや孤立を抱える子どもたちへの支援～

きっかけ

区内児童機関などから、「子どもの居場所がない」、「社会とつながる機会が少ないことで、将来のイメージを持ちづらく、不安を抱える子が多い」との話を聞き取る。

はくちょう教室 × 企業 × CSW

はくちょう教室から、社会科見学やキャリア教育など、学校における諸活動に参加できず、社会とつながる機会が少ないとの話を聞く。社会貢献活動を希望する企業に、はくちょう教室の思いを共有。その結果、企業の強みを活かした出前講座（金融講座）と社会科見学が実現。



職員の声／企業の声

◎はくちょう教室 職員の声

子どもに合わせていただき、それぞれのペースで交流ができ、達成感を得られたことで、働くイメージが深まりました。

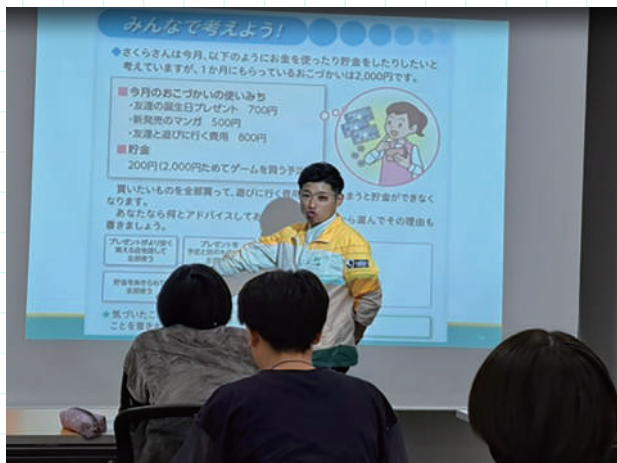
◎明治安田生命保険相互会社

事務・サービス品質管理部 社員の声

お礼の言葉をいただき、手ごたえをつかめたので、今後もブラッシュアップして、シリーズ化にしていきたいです。

※はくちょう教室とは…

登校が難しい児童・生徒のための区立教室。教科書学習（自学自習）や体験活動を通し、子どもたちの心身ともに新たな気持ちで出発できるよう、学習・生活を支援している。



大学生（ちよだ学生ネット）× CSW

学生ネットの定例会でも上記の話を共有し、自分達に何ができるか検討。夏休みに勉強や遊びなど、大学生と楽しく過ごせる子どもの居場所とし、「みんな集まれ 大学生といっしょ!」を実施。その後さらに検討を重ね、新たな名称「大学生と宿題を進める会」を2カ月に1回開催。



参加者の声／学生の声

◎参加者の声

近くにお兄さんお姉さんがいないので、自分の将来像という点で、子どもの成長にもつながり、ありがたいです。

◎学生の声

緊張しましたが、子どもたちと楽しい時間を過ごせて、やりがいのある体験が得られました。

※ちよだ学生ネットとは…（P13参照）

区内大学のボランティアサークル同士のつながりである“ちよだ大学生ボランティアサークルネットワーク”。





ネットワークがチカラになります

既存の制度やサービスだけでは解決しきれない福祉課題について、地域のみなさんや団体、関係機関と連携・協働することを目的にネットワークをつくり、情報交換や取り組みをいっしょにすすめています。

◆町会福祉部連絡会

6出張所地区ごとに、各町会福祉部で実施している高齢者等の見守り活動や茶話会、福祉講座などの情報交換や課題等の共有

連絡会がきっかけで生まれた企画

孤独死を防ぐためにできることや具体的な活動方法、実際の事例から福祉サービスを学ぶ学習会を開き、気になる世帯へのチラシのお届けやLINEの活用等、様々なアイデアの検討、実施につながりました。

<富士見地区>

「見守り学習会」

<神保町地区>

町会コラボ企画「孤独死について考えよう」

<神田公園地区>

「ちいきカフェ学習会」

<和泉橋地区>

「これからも和泉橋地区で暮らしていくために“今”みんなができること
～高齢者サービスについて知っておこう～」



◆子ども食堂連絡会

区内の子ども食堂(9団体)が集まり、活動状況や「運営資金はどうしてる?」「気になる親子がいたときの対応は?」「アレルギー対応は?」等の運営課題やノウハウを情報交換

◆区内大学ボランティア・社会貢献活動等担当者連絡会

区内の各大学(15大学)のボランティア・社会貢献活動の担当者による情報交換や課題などの共有

連絡会がきっかけで生まれたこと

メーリングリストの作成による大学への継続的・定期的なボランティア情報の提供。その結果、これまで以上に留学生なども含め、大学生の活動参加の増加につながりました。



◆千代田区地域支援ネットワーク連絡会

区内の社会福祉法人(12法人17事業所)による地域における公益的な取り組みを促進する連絡会。ネットワークだからこそできることを企画・実施

連絡会がきっかけで生まれたこと

「第22回ふれあい福祉まつり」に、千代田区地域支援ネットワーク連絡会の会員27名と出展しました。輪投げやスーパーボールすくい、ヨーヨー釣りなどの縁日を行い、子どもから高齢者の方まで、障がいをお持ちの方や外国籍の方など、様々な方と交流できました。





ネットワークがチカラになります

◆ マンション連絡会（公益財団法人まちみらい千代田主催）

区内の分譲マンションの管理組合が参加している連絡会。CSW事業の周知をするとともに情報交換やマンション内の福祉課題の把握のために定期的に参加

連絡会への参加がきっかけで生まれたこと

管理組合の理事会等にCSWが参加し、CSWの役割や地域の居場所などの紹介や個別相談への対応



◆ コーディネーター連絡会

高齢、障がい、子ども、教育、生活困窮、保健所等のコーディネーターや相談員が分野を超えて集まり、他分野の対応方法を学ぶことで、お互いの職種の役割を理解し、連携の強化を図る場



◆ ちよだ企業ボランティア連絡会

区内の企業（16社）が参加し、協働して、高齢者、障がい者、子ども分野など分野を問わず、地域課題解決のための活動の企画・実施

連絡会がきっかけで生まれたこと

- ・区内高齢者施設入居者との散策会
- ・区内高齢者施設・障がい児施設利用者との交流会・緑日運営



◆ ちよだ学生ネット

区内大学のボランティアサークル同士の横のつながりづくりと地域課題解決のための活動の企画・実施

連絡会の実施をきっかけに生まれたこと

- ・大学生と宿題を進める会（P11参照）





活動統計

こんな相談がありました

コミュニティソーシャルワーク事業の受託により、親が要介護状態、子どもに障がいがある、相談者自身にも疾患があるなど複合的な課題をかかえる相談が入るようになりました。

このような個人や家族を支援するために、区内の高齢者、障がい者、子ども、教育関係等の関係機関と連携し対応を行っています。

① 相談分類

令和6年度相談件数… 合計 81 件（新規の相談のみ）

・個別支援 39 件

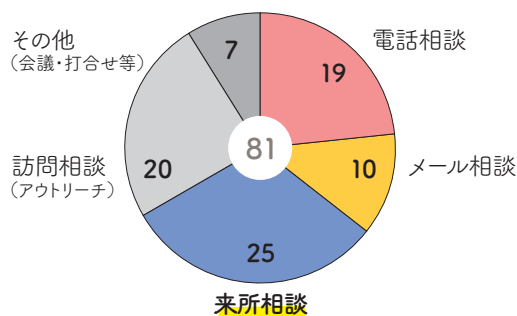
・地域支援 42 件

※地域支援とは、地域のつながりづくりや居場所づくり等、地域に働きかける支援

② 相談受付方法

出張型の相談会や、サロン等の地域の居場所において、本人だけでなく関係者から相談を受けることも多く、来所による相談受付が最も多い状況でした。

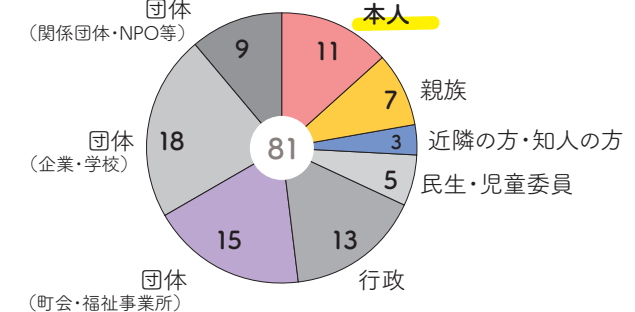
< 件数の内訳 >



③ 相談者別

「今後の生活について相談したい」「発達障がい児の支援について知りたい」「地域交流の機会をつくりたい」など本人・親族からの相談が多くありましたが、本人からだけでなく地域の方々や団体からも相談を受けました。

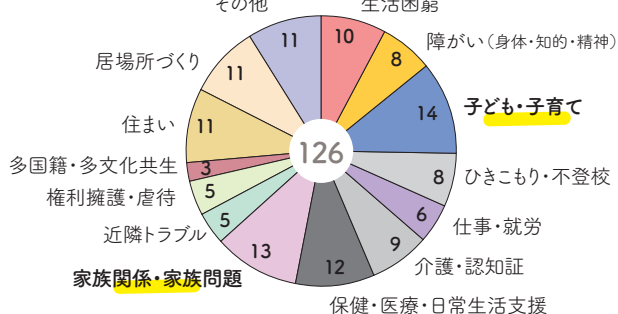
< 内訳 >



④ 相談内容 個別支援（重複あり）… 126 件

「子ども・子育て」、「家族関係・家族問題」の相談が多くなっています。子ども分野では、スクールソーシャルワーカー等との情報交換会等を行ったことにより連携強化につながりました。

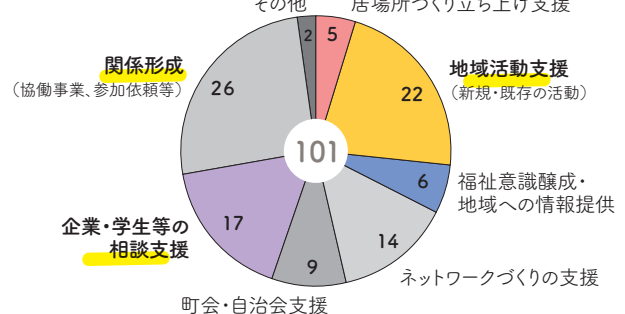
< 内訳 >



⑤ 相談内容 地域支援（重複あり）… 101 件

「子ども食堂を立ち上げたい」「店舗を活用して地域活動をしたい」等の相談が多くなっています。また、地域住民と連携し高齢者の孤立・孤独を防ぐ取り組みや企業の地域貢献に関する相談に対応しました。

< 内訳 >

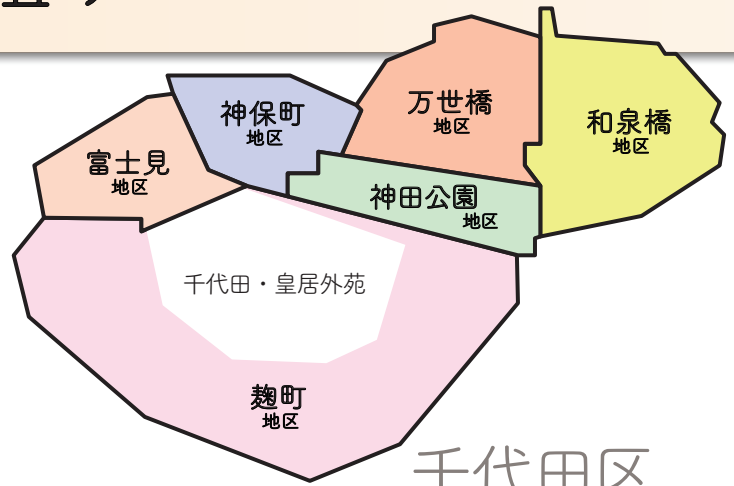


※企業や学生の相談等、ボランティアセンターで対応している件数を除く



地区担当の取り組み

本会では従来から職員一人ひとりが各課業務のほか、6出張所地区のご近所福祉活動をすすめるため、「職員地区担当制」を導入しています。地区担当職員は、町会福祉部の活動を支援するとともに行事等に参加して、困りごとや地域の人、団体、施設等の情報を把握する活動をすすめています。令和6年度からは、CSWが各地区担当職員が受けた相談や地域課題等に対し、解決に向けた支援方法や取り組みをいっしょに検討・推進しています。また、企業・学校・団体へアウトリーチを行い、地域を支援する体制も強化しました。CSWから見た、地域の特性と取り組みをご紹介します。



千代田区

面積…11.66km²
総人口…68,856人
(令和6年4月1日現在)



●年齢3区分別人口構成比の比較 (令和6年4月1日現在)

区全体	0～14歳 13.3%	15～64歳 70.1%	65歳以上 16.7%
-----	----------------	-----------------	----------------

麹町

主な取り組み

地区内の専門学校と連携した社協広報誌や
イベントポスターの制作

マンションが多く、子育て世代が増えている地域です。町会の垣根を超え、子ども向けのイベント等が行われ、近隣住民で子どもたちの成長を見守ることができる地域となっています。子ども食堂などの居場所が少ない地域となっていますが、一番町サロンは誰でも利用できる多世代交流拠点となっています。今後も幅広い世代の居場所づくりをすすめていきます。



富士見

主な取り組み

集合住宅の高齢者の見守りに関する学習会の実施、
町会と大学や企業が連携できるようコーディネート

日本橋川や靖国神社、北の丸公園など緑と水辺に囲まれ、また複数の路線が集まる飯田橋駅がある地区です。マンションが多く、子育て世代が増え、また地域内に大学も多く、町会と学生が連携し、イベントなどを行っています。地区内で起こった課題についても住民同士で学習会を行うなど、今後も解決に向けた取り組みを行っています。



神保町

主な取り組み

町内での見守り活動の一助となるよう孤独死に関する学習会、集合住宅での居場所づくりのアプローチ

大学・各種学校などの多くの教育施設や古書店街、多くのカレーやラーメン店が集まる活気のあるまちになっています。近年、外国籍の方も増え、どのように関係づくりを行ったらよいのかなどの声があがっています。地域の外国人支援NPO団体等とも連携し、学びの機会などを作っていきます。



神田公園

主な取り組み

集合住宅での居場所づくりのアプローチ、見守りに関する学習会

歴史ある民家や商店街、スポーツ用品街など多くの方でにぎわう地区です。ご近所づきあいを大切にする町会も多く、活発に地域福祉活動に取り組んでいる地域でもあります。一方、近年は新築のマンションが増え、子育て世帯や、地方から子に呼び寄せられ独居生活をしている高齢者も増えています。地域住民同士のゆるやかで新しい「つながりづくり」を一緒に考えていきます。



万世橋

主な取り組み

町会が持つ課題に対応するために地区内の学校と町会が連携できるようコーディネート

秋葉原駅を中心として、住民と繁華街と企業が共存している地区です。他地区と比較するとボランティアによる子どもの食の支援が活発に行われており、それに比例し、子どもに関する相談も多いのが特徴です。今後は子ども分野だけでなく、多様な人々が集える居場所も必要とされているため、学校や企業にも協力を得ながら居場所づくりをすすめていきます。



和泉橋

主な取り組み

孤独死防止のために知っておきたい高齢者サービスについての勉強会を地区内3連合ごとに実施

神田駅や秋葉原駅の東部にまたがる広範囲にわたる地区です。転入者が多く、生産年齢人口の比率が高くなっています。オフィス兼住居としている方も多いです。高齢者への見守りは町会・民生委員等の協力で活発ではありますが、若者～中高年の方の中には課題を抱え孤立しているケースもみられます。今後は、町会・民生委員等だけでなく、企業や団体の協力も得ながら地域福祉づくりをすすめていきます。



今後に向けて

ちよだ社協では、すべての職員が配属された系の業務に加え、区内6出張所いずれかの地区を担当する「地区担当制」を導入し、住民とともに地域の福祉課題の解決に取り組んでいます。

令和6年度からはCSW事業がスタートし、これまで以上に地域に出向き、幅広い相談を積極的に聞き取りました。

その内容は多岐にわたり、高齢や障がい、子育て、生活困窮等いくつかの分野にまたがり、

既存のサービスでは対応できない、簡単には解決に至らない事例が少なくありません。

このような事例、状況が増える中で、CSWの必要性を確信した一年でした。

CSW事業一年間の成果と課題を踏まえ、今後は下記に重点を置いた支援を行います。

※CSW事業は区からの委託により実施しています。

1. 気軽に立ち寄れる新たな居場所づくり

- ・CSWが発見した新たな障がい分野や子ども分野等に関する課題に対応するための新たな居場所づくり
- ・既存の居場所の強化を図る

3. 地域福祉を担う住民・団体・企業が協働する仕組みづくり

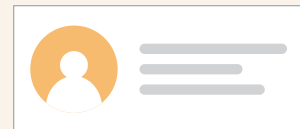
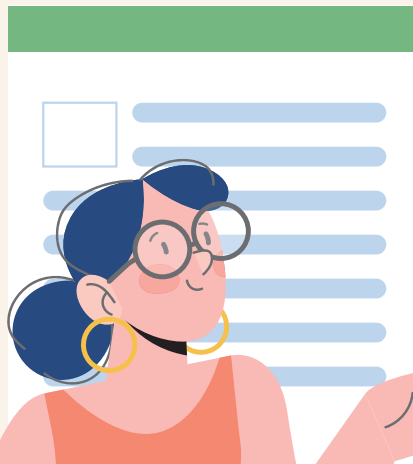
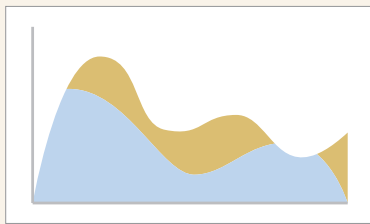
- ・住民ボランティアをはじめとする学校や企業等が活動可能な内容や方法を整理
- ・課題に対応できる仕組みづくりを検討

2. 新たな活動を生み出す場づくり

- ・地域の課題の把握や活動者の発掘
- ・住民が集う意見交換の場づくり
- ・新たな活動を生み出す地域福祉のプラットフォームづくり
- ・住民とともに誰もが住みやすいまちづくりの推進

4. 子ども・障がい・高齢等、複合的な問題を抱える家族を支援できる連携体制

- ・区内のさまざまな相談・支援機関の連携を円滑かつ強化するため日頃から顔の見える関係づくり
- ・情報交換の場づくり



地域の未来へつながるCSWの重要性

日本社会事業大学社会福祉学部福祉計画学科 教授

CSW(コミュニティソーシャルワーク) 事業スーパーバイザー 菱沼幹男

コミュニティソーシャルワーカーは、どんなことをしているの？

こうした声に答えるため、この冊子ではちよだ社協の
コミュニティソーシャルワーカーがこれまで関わってきた取り組みが紹介されています。

コミュニティソーシャルワークは、地域福祉を進める方法であり、
「地域の人々とともに生活を支えていくこと」です。
私たちは、人生の中で自分だけでは対処できない問題に直面することがあり、
時には社会福祉の専門職が支えになる時もあります。

しかし、例えば孤独や孤立、差別や排除の問題は、
専門職だけで解決できるものではなく、
多様な人々の関わりが大切です。

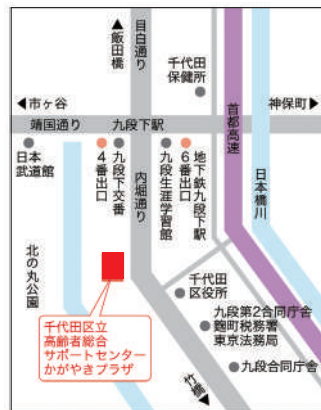
コミュニティソーシャルワーカーは、支援を必要とする人と
地域の人びととがつながることができるように、
ご本人やご家族への関わり(個別支援)と暮らしている地域への
関わり(地域支援)を行う専門職です。

ふれあい豊かな地域をコミュニティソーシャルワーカーと一緒に創っていきましょう。

お近くの窓口にご相談ください

地域サポート係

〒102-0074
千代田区九段南1-6-10
かがやきプラザ4階
TEL：03-3265-1901
chiiki@chiyoda-cosw.jp



アキバ分室

〒101-0021
千代田区外神田1-1-13
万世橋出張所 6階
TEL：03-6285-2860
akiba@chiyoda-cosw.jp



●受付日：月曜日から金曜日 ●時間：8時30分から17時15分



社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会

〒102-0074 千代田区九段南1-6-10 かがやきプラザ4階

PHONE 03-3265-1901 FAX 03-3265-1902

E-mail info@chiyoda-cosw.jp

Web $\Rightarrow$

